事例No.	2124
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	秋田県鹿角市

事例区分	DX

タグ	・観光 ・ICT ・関係人口

事例種類	文化・スポーツ

事例内容・タイトル

AR等の最新デジタル技術を活用して縄文の原風景を復元

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

144 AR等の最新デジタル技術を活用して縄文の原風景を復元【秋田県鹿角市】

事業の概要

○ 鹿角市では、令和3年7月に「大湯環状列石」が世界文化遺産に登録されたことと合わせ、文化庁「LivingHistory促進事業」に採択されたことで、遺跡の魅力をより深く、よりリアルに伝える体験プログラムの造成に取り組んでいる。

○ 発掘調査報告書や参考文献をもとに、最先端の科学技術による土器付着物の分析や考証を行い、縄文の原風景を再現するため、最新技術（ARや3DCG等）による映像制作（プロジェクションマッピング、ホログラム等含む）や史跡周遊用アプリ開発により、本物の持つ価値や魅力を体感できるプログラムとして、観光コンテンツの高付加価値化に取り組んでいる。

○ 開発したアプリによる取得情報を、ターゲット分析や行動情報のデータ化に応用し、来訪者に合わせた情報配信やコミュニケーションツールとして活用し、来場者の増加につなげる。

○ 完成したプログラムを、着地型旅行商品（ツアー）に組み入れるなど、市の推進するヘリテージ・ツーリズムとして積極的に発信し観光誘客につなげていく。



【参考情報①】 人口：3.0万人
関連URL：https://www.city.kazuno.akita.jp/

【参考情報②】LivingHistory促進事業（文化庁）とは
URL：
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/living_history/

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



令和3年7月「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました。構成資産の1つである鹿角市の「大湯環状列石」の魅力を世界に伝えたかったため、デジタル技術の活用を検討しました。

（鹿角市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



文化庁 令和3年度「LivingHistory促進事業」（105,031千円）を活用しています。

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴う移動制限により、事業スケジュールが遅延したため2カ年事業に



事業の近況を教えてください。



令和3年度から取組を開始し、3つの体験プログラムの造成に取り組んでいます。

・食プログラム（JOMON食の記憶を探る）
・まつりプログラム 造成中
・暮らし（映像制作）プログラム 造成中

食やまつりプログラムも映像制作に組み入れ、縄文時代の暮らしがリアルに体感できることで、誘客促進につなげられるものと期待しております。

★担当：鹿角市産業部 産業活力課★

令和3−4年度事業費 174,250千円
（うち、LivingHistory促進事業による助成（文化庁） 105,031千円）